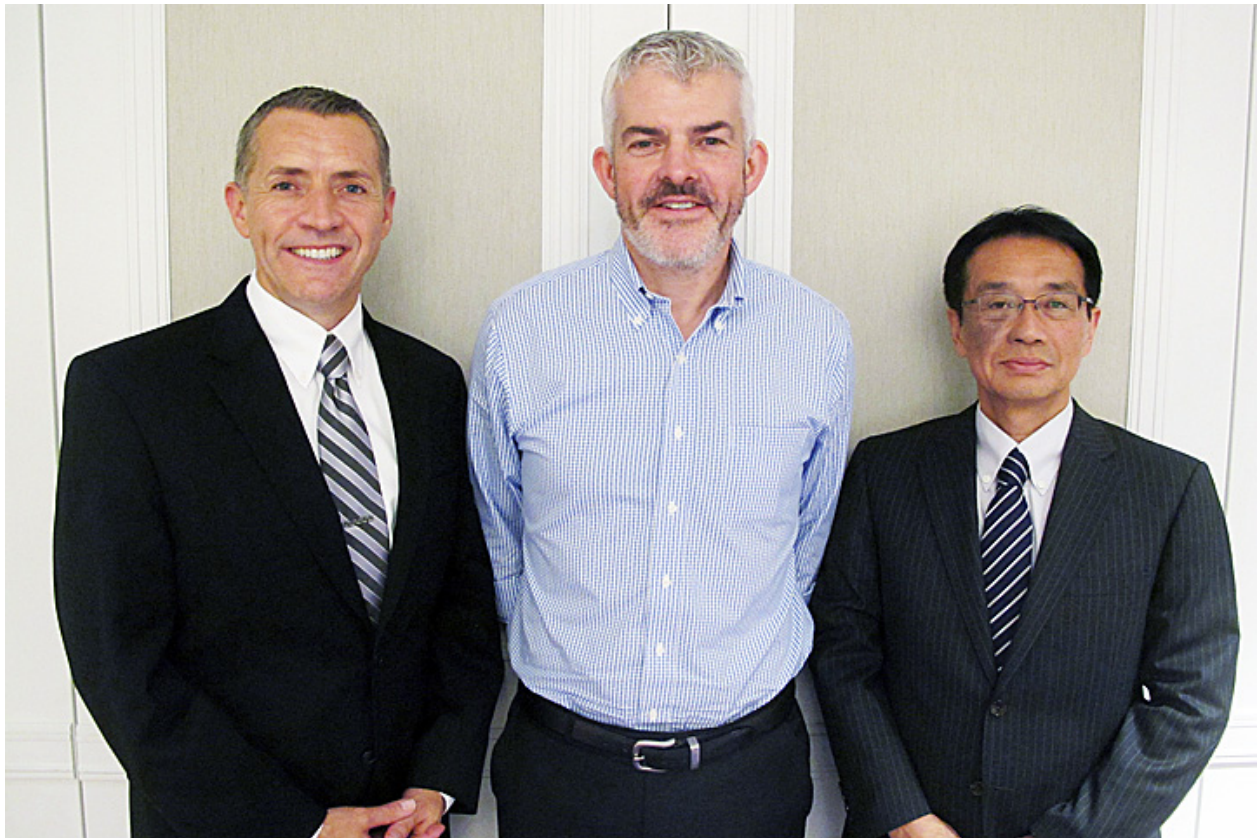


日本CRO市場は今後も成長続ける 米パレクセル・マクドナルドCEO バーチャル治験にも注力

2018/10/22 04:30



サイ・プレトリウス氏、ジェイミー・マクドナルド氏、日本法人社長の中森省吾氏（左から）

米CRO大手パレクセル・インターナショナルのジェイミー・マクドナルドCEOは日刊薬業の取材に応じ、日本のCRO市場は今後も成長し続けるとの見通しを示した。日本CRO協会の年次報告書によると、2000年に155億円だった国内CRO市場の売上高は16年には1723億円まで拡大。マクドナルド氏は、日本市場は安定的に成長していると評価し「グローバル企業として海外で各企業と経験してきたことに加え、これまでの日本での経験もあり、ビジネスがしやすい」と語った。

今後に関しては「医療は常に投資が必要な分野。また、研究において新たな発見や開発が出てくる。成長は続いていくだろう」と述べた。後発医薬品の浸透については「市場全体の売上高は新薬の占める金額が多く、影響はないだろう。われわれの取引先である先発医薬品メーカーはさらに新しい製品の開発に目を向けている。世界的に言えることだが、より多くのイノベーションへの投資はあると思う」と期待感を表した。

●マイクロソフトと提携

治験の課題としては「医師の選定」や「患者の組み入れ」を挙げた。医師については継続的な啓蒙活動による試験参加への動機付けが大切だと説明。被験者には、参加同意を求める際、試験の概要やプロトコルを分かりやすく説明した動画を本人やその家族に見せることで同意取得率の向上や脱落率の抑制に努めているとした。

同社は昨年、マイクロソフトと提携した。上級副社長兼チーフメディカル&サイエンスオフィサーのサイ・プレトリウス氏は「たくさんあるデータをどのようにインサイトに変えていくかが重要だ」とし、膨大なリアルワールドデータを新たなイノベーションにつなげることで、被験者が自宅にいながら試験に参加できるバーチャル治験に向けた環境も整備されていくと指摘した。

注目を集めるバーチャル治験については、11年にファイザーと共同で「リモートスタディー」として取り組み始め、現在も米国の機関と共同でセミバーチャルの臨床試験を3~4本手掛けている。プレトリウス氏は「リモートスタディーは成功しなかったが、学んだことはたくさんあった。完全仮想治験に興味を持っている製薬企業はいくつかあり、投資などに関する対話を継続して行っている」と説明した。

●中国成長も米国市場が一番重要

医薬品市場の成長が目覚ましい中国について、マクドナルド氏は「これだけの成長スピードはかつてない。特にバイオテクノロジー業界の進化が速い」とした。一方、中国には日本ほど大規模で確立された製薬業界はまだなく、「歴史や伝統では日本市場と大きく異なる」とも。さらに「日本、中国、欧州と市場はあるが、先発品が40%ぐらいある米国市場がやはり一番重要だと考えている」と冷静な見方を示した。